

【第2分科会】

演題：「自分で人生をつくる子どもを育てたい ～チャレンジを通して～」

講師：太刀山 美樹 氏（株式会社 MIKI-ファニット 代表取締役）



子どもを産んだ後、家庭訪問にきた保健師さんから「毎日変わらないですか」と言われた瞬間に、「変わらないこの生活が嫌なんです」と玄関先で号泣しました。「そんなに元気が余っているなら」と連れて行かれたのが、西陣の公民館の高齢者ふれあいサロンという所の体操のボランティア。子どもと一緒に連れて行くうちに、今度は子どもと一緒にできる運動をしようと。でも場所がなかったんですよ。ないなら作ろうと思って、公民館とかいろんな場所に行くんです。当時 20 代で、取りあえず思いだけで行くんですね。

「私、こんなのやりたいんで、やらせてください」とあまりにも暑苦しく言っていましたら、何かの勧誘と間違えられて門前払い。そんな中で、もう 1 回勉強しようと思った先で「今日は講師が 10 分遅れるの、先生が来るまで 10 分つないどって」と言われたんです。私、人生のモットーは「来た玉は打つ」ですので、「じゃ、やります」と。そうやっている所を、同じ受講生の一人に「今度看護学校の学部立ち上げるんだけど、あなたみたいな人に先生になってもらいたい」と言われ、「教員免許持っています。社会教育主事資格も持っています」と講師に…。

また街角で指導している所に NHK の取材が入った時、名刺をお渡ししていましたら、いきなり電話がかかってきて「NHK の健康講演会、2 時間やれますか」と言われ、1 回もやったことがなかったのに「やれます」と言って、2 時間の講演会をやったり。さらには、その講演会が面白いということで番組の方に呼んでいただいて、『九州沖縄ぐるっと 8 県』という、毎日あっている情報番組の中で、自分で運動を企画してやるという体操のコーナーを、何と 10 年もさせていただきました。

ファニットって何だろうということですが、これは造語です。人間の動機付けって面白くないとできません。特に小さな子どもさんとシニアの方って、つまらない先生だなと思うと、「おしっこ」「おしっこ」「おしっこ」と、みんないなくなっちゃうんです。大人も一緒です。面白いというのは大事です。私たちはこの動機付けとかコミュニケーションスキルを凄く大事にしている運動プログラムをやっています。

子どもの運動講座というと、喜んでいただくばかりじゃないんですね。特に民間の場所をお借りしようと思うと、子どもたちが集まるのを嫌う所が多いんです。たまたま、ある事務所さんの 2 階を借りることができて、そこで子どもから高齢者まで 1 日のプランが上手くできるというのを試しでやろうと思ってやっていたら、子どもが 20 人くらい一斉に飛び跳ねるので下の事務所に丸響きで、「悪いけど出て行って」と言われちゃうんですよ。子どもに「なるべく音が出ないようにして」と頼むか。でも、それは嫌だったんです。折角子どもたちが運動するのに、そんな「静かにして」なんか無理な話。叫べるだけ叫べる所にしよう。

九大学園都市駅というのが福岡にあるんですが、駅の向こうに大きなイオンがあつて。私はイオンに縁もお金も人脈も何もなかったんですけど、思いだけでホームページの掲示板に書き込みました。『九

州の子どもを全部元気にして社会に戻す自信があるから、場所をください』と。翌日イオン九州から電話がかかってきて、2時間後には行ってベラベラ喋っていました。「お前面白いな。うちでやれ」と言われて。「うちでやれって、この人誰だろう？」と思ったら、イオン九州の取締役の方で。「ここでやれ」と言われたから、お金もちょっと出してくれるかな、なんて思ったらそんなことは全然なくて、一気に650万くらい借金背負うんですね。さすがに銀行からお金借りる時、印鑑押す手が震えました。旦那や子どもに迷惑かけちゃいけないな、と思ってですね。

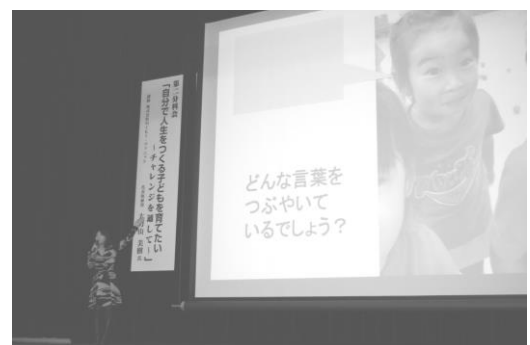
また先生方の研修コンサルタントというのを担当させていただいています。熊本県では文科省の子どもの体力向上事業というのを5年ほど前に担当し、南関町をモデル地区として、小学校・幼稚園を回らせていただきました。親子で運動したくなる絵本というのを県教委から頼まれて監修して作ったものが、熊本の全部の幼稚園・保育園に配ってあるということだったので、どこかで見ていただいたかもしれません。

教室は、0・1・2歳から親子で行うプログラム、チア、体育。この体育が、苦手克服体育なんですよ。うちは発表会を必ずやります。その発表会の時に、ダンスは上手なのを踊って見せるんですが、体育は子どもたちに自分で種目を選んでもらっています。うれしいのが、自分の一番嫌な種目を選んでくる人が多いことです。例えば、鉄棒が苦手だった子が鉄棒を選ぶんですね。200〜300人、イオンの吹き抜けから見ているような人たちの前で、子どもが一番苦手なのをやって見せるって、凄くないですか。そんなことを1回できれば、この子は後で学校に入って嫌なことがあったり、ちょっと合わない人がいたりしても、負けない気持ちになっていってくれるんじゃないかと思っています。

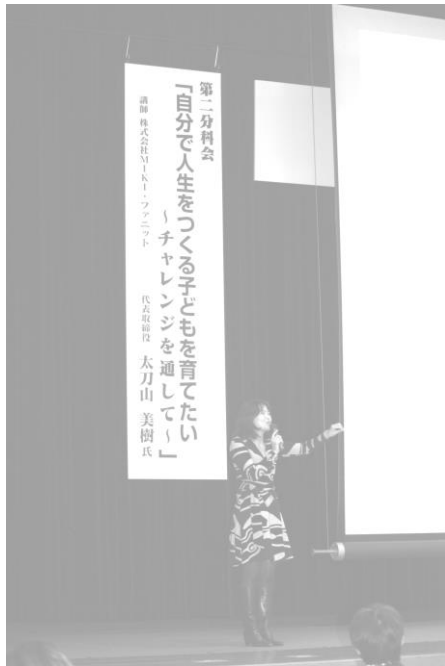
スマホって皆さんほぼ1台もっていらっしゃいますよね。こんなの5年前に一人1台持つなんて誰も思ってないですよ。5年前になかったものがこれだけ変わるっていうことは、今から10年先に今ある職業が半分入れ替わるとも言われているそうです。しかしそんな中、大学生に「どうするの将来？」と言ったら「別に」という子がいるんです。この変わっていく時代にそれでいいのかなと、私は本当に危機感を持ちます。

私は小さな会社の経営者です。予算がそんなにありません。人を雇うのに学生が2人来ました。一人は「こういうことやりたくて、こんなこと自分はできるかもしれない。まだできないかもしれないけど、やりたんです。この会社に入れてください」と言う。もう一人は「そこそこの給料でそこそこやればいいんで、そこそこ働かせてください」と言う。雇うなら前者になりますよね。

ジュニアリーダー育成というのをずっとやっていて、小学生に将来の夢というのを聞いたんですが、今の小学生は何て言うと思いますか。聞いた子どもたちは3人で、たまたまかもしれませんが、「大人って面倒くさそう」、「大人になりたいくないです」。3人目は「フリーターでいいです」と言ったのです。3人目のお母さんは教育熱心な方だったんですが、それを聞いた瞬間に、目から光が消えていくのが見えました。「フリーターがいいです」ならまだいいと思ったのですが、すごい違いだと思いませんか。



福岡市では今、イノベーションスタジオ福岡というのを行政のバックアップで計画されています。そして新しいまちづくりや産業を福岡から生めないかというのを考えています。その調査の一環で、今年



社会人になった子どもたち（私の中では1期生）にインタビューすると、私が教えていたダンスなんか覚えていませんでした。でも100円ショップで買ったTシャツを見せ、「人と違う衣装を作ってきて。これで今度立つよ」と私が言った時に、一人一人個性があるのを作ってきたんです。そのことはやけに覚えていたんです。

私はその時、糸島という所に住んでいて、南風台という新興住宅街だったんですね。全員が引っ越してくるという新しい町で、全員が転校生。中には学校に行きづらくなった子たちも随分見ていました。皆が仲よくなれるようにとか、切磋琢磨してほしいという願いがありましたので、ダンス教室をやりながらいろんなことをやっていました。皆で標語を作ってみようとか、木や石を持ってきて何か工作やってみようとか。そういうのはよく覚えているんですね。

「いろんなことをやるけれども、どうしても人前で喋らなくちゃいけない場面が出てくる。昔は苦手だったけれど、人前に立って踊ることやっていたことが何か役に立っている気がする」と子どもたちが言ってくれました。こいうことは大事なんだと、今改めて思っています。私たちが目標にしているのは、挑戦できる子ども。そうして大人になっていけたらいいなと考えて、今色々なことをやっています。

皆さんにちょっと隣の方と話していただきたいのが、自分の良い所を3つ、相手の方にお話をしてください。自分の思っている自分のよい所なので、相手の方も否定することはないと思いますので。ではお願いします。2番目の方もお願いします。3番目の方がいらっしゃったら3番目の方もお願いします。3つスラスラ言えましたという方、どれくらいいらっしゃいますか。手を挙げていただいていいですか。はい、ありがとうございます。

人にやさしくするって、自分のこと好きじゃないとできないですよね。自己肯定感とよく言われることだと思うんですけども、まず大人が持たないとダメなんじゃないかと思っています。「私なんかどうせね」とか「お母さんはできないけれども、やれるでしょ」と言われてもピンとこないですよね。やれないことなんか一杯あると思うんですけども、私は気の持ち様だと凄く思っています。

自己肯定感の低い方が多いんですよ。偉そうに言っているけど、かつての私なんです。私は稼いでないし、世の中今よく分かんないし、このまま年取るのかな、大丈夫なのかなと私は思っていました。そうすると、この子だけはと思って、変に肩に力が入り過ぎてパキンと折れたんですね。

自分のことをプラスに思えるように大人になるって、凄く大事だと思っています。これは学校の先生でも一緒だと思っています。偉そうでしょ。でも、気持ちの持ち様って自分で変えるしかないですよね。自分のことを好きにならないと、子どものことをどうこうという前に、自分の気持ちの安定って凄く大事だなと思っています。

ほめて育てましょうということで確かにほめて育てるんですけど、嫌なことがあったら口に出して下さい、とお母さんたちに言っています。どういうことかという、イライラしているけれども何かほめなくちゃいけないとか、何とかしなければいけないというのをちょっと変えてみましょう（無理をしな

いで)。気持ちの持ち様、そこが大事だなと思っています。

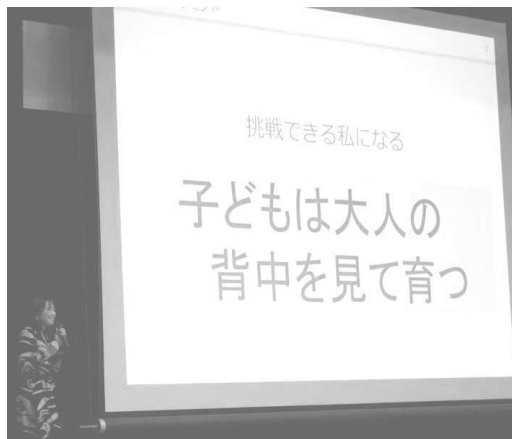
例えば幼稚園や小学校の PTA の役員、この中の方は多く関わっている方が多いと思うんですが、あの役員決めの瞬間、胃が重たくなりませんか？「学年委員で何すると」「親子レクリエーションと司会。誰もおらんちゃん」「え、そんなんでいいなら、やる、やる、やる、やる」と、得意な人が一杯出てきたら、他の人に頼む分が少し減ってくるかなと思っています。そんなのも全部子どもたち見ているんですよね。「ああ、何かこういうのやっている、母ちゃんて格好いいな。キラキラしてるな」と。

今、自警団のパトロールでお父さんたちにたくさん入ってもらおうという動きがありますよね。何かに関わるって凄く大事だなと思います。でも、そう言っても今のお母さんは動いてくれない。そんな時にセンセーショナルな出来事が起こりました。

家の娘、えらく可愛いんですよ。可愛いので電車の中から男の人につけられて、駅から家まで 10 分くらいなんですけれども、一人で帰ってきていたら、夜の 8 時くらい、山の中に引っ張り込まれそうになったんですね。車に引っ張り込まれて連れていかれたら、もうアウトだったと思うんですが、たまたま犬の散歩をしていたじいちゃんが上から下りてきて、じいちゃん見て犯人逃げたんですよ。それで警察に届けにいったら、同じ事件が 3 件あったんです、その日。もうぞっとしました。何がよかったかって、じいちゃん存在ですよ。本当にありがたい。自分の健康づくりが、もう健康づくりではないんです。社会の目、パトロールなんですよ。それだけで社会貢献でしょ。

それで、お母さんたちに話すのは、「これってね、特別な話じゃないよね。誰でも起こる話よね」と。自分の住む場所決める時にどうやって決めた？学校がいい、病院が近くにある、何がある…、その他に地域がどんな所かなと思って住んだやろ。じゃ、地域って何を見た？住んでる人を見たはずだよね。じゃ、自分の子どものことだけでいいのかな、そうじゃないよね。プラスアルファ、小さなことでいいから何かできたらいいと思わん？それ全部、子どもが後ろを見よるとよ、と。

私も子どもの頃にミニバスケットをやっていて、監督・コーチに助けてもらったこと、親以外の存在、学校の先生以外の存在も大きかったと思うんですよ。地域の人に助けてもらったこと、一杯あるんですよ。その思いがあるから、地域のために何かしようとなると思うんですよ。となると、「お母さんたちどう？せめて今日乳幼児教室で、自分の子どもを後ろで抱っこしてくださったボランティアのスタッフの方いらっしゃるよね。1 時間も抱っこして下さった方に何も言わずに帰ったらもったいないよね。心を込めてありがとうと言おう」と。で、泣いている子に向かって何て言うか、「可哀想にゴメンね」と言うんじゃないくて、「ありがとう」と。「頑張ったんやろ。お母さんも頑張った。今日は何とか



の勉強して凄く楽しかった。こんな勉強ができてよかった。頑張ってくれてありがそう。見てくださった先生、ありがとうございます」と言って帰ると、子どももうれしいし、自分もうれしいし、ボランティアさんもうれしいですよ。皆で育てていくと口で言うのは簡単なんですけれども、ほんのちょっとしたことを、やっていけたらいいなと本当に思っています。何か変えられる一歩ができていけたらいいなと、私も模索して勉強している所です。

子どもたちに自信をつけさせたいなと思っています。だ

って自分の人生は自分で作るんだもの。色々あっても、この人生を選んだのは私。道がAかBに分かれる時に選んだのは私。一度専業主婦になると決めたのも私。周りの仕事をしている友だちがうらやましかったのも私。でも、選んでここに来ている。人に言われてやらされているのではない、というのが凄く大事なだと思います。そのためにも、親自身も、先生自身も、大人自身が自分で選んでこの道を行っているんだと、子どもに見せてあげるのが凄く大事だと思うんです。

香川県の川和（かわわ）保育園という所はですね、ハザードギリギリという園なんですよ。4メートルの高さのツリーハウスとかがあるんですね。そういう所に子どもが登っています。先生は下で見ていることはしません。「背中で感じろ」、というのが園長先生の教えだそうです。親への教育もしっかりしています。入園が決まったら、毎月3時間、講演をされるらしいんですね。ここに入るとこんな事故があります。こんなケガをします。こんな対処をしました。こんな所は計算して変えていますと。

うまいなと思うのが、登る時に緩やかな坂とかないんですよ。緩やかな坂とか作っちゃうと体力のない子まで上がってしまっって、結局ケガする。だから、上がるためにはよじ登らないといけないというのを、敢えて計算して作っているんですね。たき火もしています。ひたすら釘を打っている子もいました。ひたすらノコギリ引いている子もいました。でも先生は誰もそばにはいません。ケガするのも当たり前。子どもたちがルールを全部自分たちで把握して、ここするにはこうせんといかんから、しなくちゃいけないんだよと子どもから聞きました。土日に親御さんが、パパがずっとそれを作るらしいんですね、1年間かけて。それで1個ずつできていく。子ども天国、親地獄とお母さんたちがそれくらい大変とおっしゃっていました。でも、子ども全体が育っていくというのが凄く楽しいかなと思います。

もう一度、皆さん私のいい所は？私のいい所は出なくても、私の残念な所は？。これだと10個以上もパッと出る子がいるんですね。是非、周りのお子さんに聞いてあげてください。そして自信が持てるように「頑張れよ」と言ってもらえたらいいなと思っています。やりたいと思って手をつけてないのは何かな、自分の大事な価値観って何かなと。

皆様、最後に一つ。明日から、今日から、私はこれを何かやってみよう。決めないとお部屋から出られないというシステムになっていますので、何か一つ決めてください。こういう講座って、部屋を出て3歩目で決まるそうです。3歩で「ああ、面白かった」で終わるか、「やっぱりやってみよう」か、この3歩目で、あなたの道がどっちにいくかというのが決まるそうです。

今日は長々お話をさせていただきましたけれども、福岡でこういう活動をしています。そして熊本にも頑張っている仲間、友人がたくさんいます。一人一人がいろんな所で子どもたちを支えていたら、世の中本当に変わるんじゃないかと、私はアホみたいに思っています。そのためなら何でもしようと思っています。どうぞ皆さん一緒に頑張っていきましょう。どうもありがとうございました。